

CPA 政連ニュース

日本公認会計士政治連盟

ACT TOGETHER URL <http://www.cpa-seiren.jp>

2014年6月16日
第386号

発行所
日本公認会計士政治連盟
〒102-8264
東京都千代田区九段南4-4-1
公認会計士会館
電話03-3515-1155

発行人 黒田克司
編集人 北方宏樹

- 公認会計士目線で国会を変え、公会計を変える
- 活動報告
 - 民主党公認会計士制度推進議員連盟総会 開催
 - 「山田美樹を囲む公認会計士の会」による第2回朝食会 開催
- 囲む会のお知らせ
- 政治連盟会費の納付について(ご協力をお願い)
- 談話室

日本公認会計士政治連盟 インタビュー



青年部 米田 恵美
日本公認会計士政治連盟 幹事長 鈴木 昌治
杉 久武 参議院議員 公明党
青年部 奥川 剛志
青年部 高橋 星行

公認会計士目線で 国会を変え、 公会計を変える

昨年7月の参議院選挙で初当選を果たした杉久武参議院議員は、1年生ながら決算委員会の理事を務める。また、超党派の公会計制度改革推進議員連盟にも所属し、公認会計士目線で国政の改革にあたっている。今回は青年部も交えて、杉議員からさまざまな話を伺った。

中学生から 公認会計士を目指す

奥川 杉先生は私と同じ1997年合格の公認会計士ですが、当時は公認会計士の就職氷河期が少し雪解けになってきた頃だったと思います。そういう厳しい時代に公認会計士を目指されたきっかけは何だったのでしょうか。

杉 じつは私の父が税理士を開業してい

ましたので、会計分野については比較的若いうちから知る機会がありました。そのなかで私自身が強く影響を受けたのは、「公認会計士は企業のドクターである」という考え方でした。公認会計士には社会的使命があると強く感じ、すでに中学生くらいから意識していましたね。

奥川 合格されてからは大手監査法人に入られていますね。

杉 国際的な仕事をしたいという意識もあったので、大手監査法人の国際部に入り

ました。

奥川 海外での勤務もあったかと思うのですが、思い出深いエピソードがあればお聞かせください。

杉 入って1年目に、アメリカの提携会計事務所による日本でのプロジェクトに参加したのですが、その際、アメリカ側のチームが帰国するまでに、膨大な取引データを記録テープにコピーする必要が出てきました。時間がないので新人が24時間3交代でコピーを録り続けたことが印象深かったですね。監

査法人ではこんな仕事もするんだと驚いたものです(笑)。それと同時に、公認会計士だからこそ顧客にも信頼されて、そうした重要なデータに触れる機会があるということを実感しました。

その後は2006～2009年にアメリカへ駐在して、現地の日系企業の監査を行っていました。現場でそれこそ仕訳から指導するような、ある意味で泥臭い仕事をしていました。

海外勤務の苦勞が“栄養”

奥川 一番苦勞されたことは何でしたか。
杉 ちょうどリーマンショック(2008年)と重なったので、監査報酬は下がり、クライアント

はなくなるという具合で、結構タフな時期を過ごしました。また、上司も部下もアメリカ人という環境で、コミュニケーションにも苦勞しました。人生である時期が一番大変だったと思います。渡米してから半年で体重が8キロも落ちました(笑)。

鈴木 逆にそれが“栄養”になっているところもあるように思うのですが…。

杉 そうですね。当時の経験が今の自分にも活かしていると思います。ちょっとやそっとのことでは動じなくなりましたから(笑)。

米田 日本に戻られてから2013年7月の参院選に出馬されるまでに数年ありますが、いつ頃から政治家を目指されるようになったのでしょうか。

杉 2012年春頃に選挙区の前職の方から参院選への出馬を勧められました。少しでも何か自分の経験値からお役に立てればと思い、政治家を目指す決意をした次第です。

国政にもっと公認会計士を

奥川 政治家を目指される決断を下した具体的なポイントは何ですか。

杉 国政にはいろんな専門家が必要だと思いますが、そのなかで会計の専門家はまだまだ少ないという状況を危惧していました。国の予算・決算というのは日本で最も大きい会計主体のはずです。そこに対して説明責任も足りなければ、ムダも多い。それどころか、実際にどれだけのムダがあ

るかもはっきりしていません。

そういったところを透明にしていけないと、国の借金が1000兆円を超えている状況を改善することはできないですよ。そのためにも、数字に対する説明責任を果たすことができる能力を持った会計の専門家が、国政にもっと進出しなければいけないと考えたわけです。

高橋 そうした問題意識で参議院議員に当選されてから、さまざまな活動をなさっていると思いますが、そのなかでも印象深いエピソードがあればお聞かせください。

杉 印象に残っているのは、やはり初めて議員として地元から要望を受けたときですね。私が公認会計士だったということをご存知のうえで、ある方から「ものづくりの補助金があるけれども、役所の説明会ではその補助金は圧縮記帳ができないと言っていた。本当か」という質問をいただいたんです。

鈴木 それは専門的な質問ですね(笑)。

杉 圧縮記帳ができないというのはおかしいと直感的に思って確認したところ、「圧縮記帳は問題なくできます」との回答が役所からは得られました。結局、説明会の場ではちゃんとした通知ができていなかったことがわかったのです。

この体験から感じたのは、地元の声を聞かないと絶対に気づかない論点がたくさんあるということです。本当に困っている人の問題点に気づくためにも、現場を知ることが重要だと強く感じました。

地方から公会計を変える

鈴木 杉議員は現在、どのような委員会に所属されているのでしょうか。

杉 決算委員会と経済産業委員会に所属しており、決算委員会では1年生ながら理事も務めています。その意味では、決算の最前線で仕事ができていることに充実感を覚えています。

鈴木 その最前線で気になっていることはありますか。

杉 圧倒的に材料が不足しているということですね。国会の審査で正式の対象となっているのは、あくまでも従来型の現金主義・単式簿記の決算書です。他には財産目録のようなものがあるだけです。一応、それとは別に国の財務諸表が作られてはいるのですが、正式な国の決算書とは位置づけられていません。あくまでも参考資料にとどまっています。

もちろん、昔よりは改善されてきているとは思いますが、それでも民間企業では考えられないような状況です。本当に意味のある決算審議をするには、材料を揃えるところから始めなければならないと思っています。鈴木 国会で発生主義・複式簿記の考え方がなかなか理解されないのは、国民全体の課題でもあるのではないのでしょうか。義務教育あたりで発生主義・複式簿記の基礎を教えることで、国民全体のリテラシーを高めることもよいように思います。

杉 ボトムアップという意味では、公会計においては地方から充実させていく方が広



Profile

昭和51年 1月4日 大阪市生まれ
平成9年 10月 公認会計士第2次試験合格
平成10年 3月 創価大学経営学部卒業
平成10年 4月 中央監査法人入所
平成14年 4月 公認会計士登録
平成18年 10月 米国プライスウォーターハウス
クーパーズ会計事務所へ駐在
平成19年 7月 あらた監査法人入所
平成22年 8月 米国公認会計士登録
平成24年 10月 あらた監査法人退所
平成25年 2月 税理士登録
平成25年 7月 第23回参議院議員通常選挙で大阪府
選挙区から初当選
現在 参議院決算委員会理事、同経済産業
委員会委員、公明党青年局長、同国
際局長、同大阪未来プロジェクト事
務局長

がしやすいんじゃないかと私は考えています。国はどうしても大きすぎるので、なかなか国民も現実感を持って見ることが難しい。その点、自分たちが住んでいる市町村の会計であれば、身近に感じることができるはずなんです。

たとえば図書館の本を1冊借りるのにどれだけのコストがかかっているかなど、目に見える形で会計情報を充実させていくことが、本当の意味での説明責任につながっていくと思います。地方公会計から公会計改革を進めていく必要があります。

ただ、そこで気をつけなければならないのは、単に財務諸表を作れば済む話ではないということです。現状でも1700の自治体のうち、1200くらいの自治体がすでに複式簿記を導入していることになっています。ところが、その多くは既存の会計データを期末に一括で複式簿記に仕訳化しているだけなのです。

本来は、日々の管理情報としてデータがためられて、タイムリーに採算や業績評

価ができるようなものでなければ意味がありません。現在、新しい地方公会計制度の整備が進められていますが、より充実したものになるよう、しっかりとバックアップしていきたいと考えています。

公認会計士目線で政策実現を

鈴木 超党派の公会計制度改革推進議員連盟も結成され、公認会計士で国会議員を務められている9名の先生を中心に、公会計の議論が活発になってきています。われわれとしても、公認会計士目線での質の高い政策に期待しております。

一方で、日本公認会計士協会や政治連盟の活動もますます重要になると考えています。われわれの活動についてアドバイスをいただけますでしょうか。

杉 たとえば審議会などへの参加がまだまだ足りないように思います。公認会計士が参加していない審議会で、公認会計士



の役割といったことが勝手に決められていっているのが実状です。

米田 最後に、杉議員の政治信条について教えてください。政治家として、会計という専門以外のことにも広く対応していかなければならないと思います。どのような姿勢で臨まれているのでしょうか。

杉 すぐにはすべてを理解することはできませんので、ひとつひとつ謙虚な姿勢で勉強していているところです。一方で、

会計のような自分の専門性を活かせる場面では、積極的に動いていきたいと考えています。

また、日本公認会計士協会や政治連盟からもご意見をいただければと思います。青年部の皆様とも、同じ世代として意見交換できれば幸いです。

鈴木 こちらこそよろしくお祈りします。本日はありがとうございました。

活動報告

民主党公認会計士制度推進議員連盟総会

開催 平成26年5月22日



衆議院第二議員会館において「民主党公認会計士制度推進議員連盟総会」が開催された。冒頭に野田佳彦議員連盟会長より、活発で有意義な意見交換ができればとの挨拶があった。

まず森公高協会会長（政連特別顧問）より議題としたいトピックスの概要を説明し、その後、協会役員が詳細説明を行った。梶川融副会長は、会社法及び金融商品取引法の開示・監査制度により二元的な開示が要求される現状の制度課題と一元化へ向けての取組み、「子ども・子育て支援新制度」に係る監査の必要性、地方公会計制度に関連する協会の取組みに

ついて説明した。さらに、関根愛子副会長が日本におけるIFRSの動向と協会の方針について、鈴木昌治副会長が特別目的の財務諸表の監査に関する協会の対応と、年金基金での会計監査の必要性について説明した。

多岐にわたる協会からの説明の間も、民主党議連より都度、質問やより細かな説明の要望が飛び交った。協会からの一方的な説明となることなく、時に会場が笑いにつつまれ、時に議員が身を乗り出し大きくうなずかれるなど、まさに活発で有意義な意見交換の場となった。

「山田美樹を囲む公認会計士の会」

による第2回朝食会 開催 平成26年5月22日

「山田美樹を囲む公認会計士の会」による第2回朝食会は、木下俊男会長の他、囲む会の役員7名が出席し、衆議院第二議員会館において開催した。

はじめに木下会長より、意見交換の機会を定期的に設け、お互いの情報を共有していきたいとの挨拶があり、続いて参加者による自己紹介が行われた。

山田議員は、集団的自衛権・電力問題・法人税実効税率を中心に現在の動きとご自身のお考えを述べられ、囲む会の鈴木昌治顧問は、子ども子育て支援新制度に関する説明と、将来的に医療・介護・老人福祉の分野での財



務の透明性を高める制度作りに是非とも協力いただきたい旨の提案を行った。

各報告を受けての活発な意見交換の後、前原一彦顧問より東京会定期総会懇親会（6月30日開催）のご案内を申し上げ、囲む会の第1回通常総会は8月下旬頃に開催することを確認し、散会した。政治連盟東京会

囲む会のお知らせ

囲む会へご参加いただける方は以下までご連絡ください。
日本公認会計士政治連盟事務局
☎03-3515-1155 / Fax03-3515-1154

若松かねしげCPA元気アップ隊

日時：平成26年6月26日（木）18:30～
会場：アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区）

浅尾慶一郎を囲む

公認会計士の会
日時：平成26年7月2日（水）18:00～
会場：崎陽軒本館（横浜駅隣接）

高市早苗氏を囲む公認会計士の会（仮称）

日時：平成26年7月13日（日）14:00～16:00
会場：シェラトン都ホテル大阪（大阪市天王寺区本町）

杉ひさたけ参議院議員を囲む

公認会計士の会
日時：平成26年8月30日（土）
17:00～（設立総会）
会場：シェラトン都ホテル大阪（大阪市天王寺区本町）

政治連盟会費の納付について（ご協力のお願い）

—「預金口座自動振替」制度をご利用ください—

昨年の税理士法改正問題では、全国の会員及び準会員の皆様には多大なご支援とご協力を賜り、あらためて深く感謝申し上げます。さて、当政治連盟は、公認会計士及び日本公認会計士協会の準会員で構成されており、公認会計士の社会的地位の向上を図り、公認会計士制度を確立するために必要な活動を行っております。何卒、政連活動にご理解を賜り、会費の納付にご協力くださいますようお願い申し上げます。（大手監査法人所属の方には、法人本部を通してお願いしております。）

なお、納付にあたりましては、4月下旬にお届けしております「払込取扱票」をご利用ください。また、本年度からコンビニエンスストアでのお支払いも可能となりました。

さらに、本年度から、会費の納付に便利な「預金口座自動振替」制度（年1回引落し）を採用しております。ぜひご利用いただきますようご案内いたします。なお、「預金口座自動振替」をご希望される場合には、下記にてご連絡ください。必要な書類をご送付いたします。

:: 政治連盟会費（年額） ::

公認会計士12,000円

準会員1,200円

【お問合せ先】 日本公認会計士政治連盟事務局 ☎ 03-3515-1155 / FAX 03-3515-1154

談話室

先日都内で開催されました日本監査研究学会に参加させていただきました。170名近くの参加者がいらしたということで、東日本本部会としては学会始まって以来の大盛況とのことでした。統一論題は「会計判断と監査判断—虚偽記載に伴う課税金納付事例を取り上げて—」というもので、監査実務に身を置ける者としては、身近な、また興味深いテーマでした。佐々木清隆金融庁公認会計士・監査審査会事務局長の特別講演も聴くことができ、有意義なシンポジウムでした。ただ残念だったのは、会場に若い方の姿が少なく研究学会にも高齢化の波が押し寄せていることでした。

会計学を志す学生が極端に減少しているという事実は、様々な機会に耳にすることが

増えてきています。公認会計士試験の受験者も減少しています。監査業務がマニュアルを潰すだけの作業になってしまい、創造性の発揮や自己のジャッジメントの余地が無いという現状が、若い方々の希望に合わない職業だと敬遠されてきているのでしょうか。

監査は公共財であり、経済社会のインフラです。明日の活力ある日本経済を支えるためにも若い実務家の公認会計士の方々にこそ、このような研究学会に積極的に参加いただき、活発な議論を行い、監査業界が若い方々の夢と希望に満ち溢れるような変革を目指して行きたいと思っております。

（広報局長 北方宏樹）